

令和3年5月20日
(資料提供)

(事務担当)

所属名：農林総合研究センター 農業試験場
総合研究部 病害虫防除室
直通：257-6972

令和3年度病害虫発生予報第2号について

今後発生が予想される水稲、大豆、果樹、野菜・花きの病害虫の発生量や防除上の注意事項について掲載します。

1 予報期間 5月下旬～6月中旬

2 予報内容

(1)水 稲

葉いもちの発生は**やや多**と予想される。本田に放置された補植苗は伝染源となるので、直ちに除去する。箱施薬していない場合は6月中旬に予防粒剤を散布する。発生を認めた場合は初期の防除を徹底する。

イネドロオイムシの発生は**やや多**と予想される。箱施薬していない圃場では6月上旬に1株当たり1卵塊以上認められる場合に、直ちに防除する。

斑点米カメムシ類の雑草地における発生は**やや多**と予想される。今後急激な増加も考えられることから、生息場所となる農道、畦畔、休耕田及び遊休地等の雑草地の除草を徹底する。

(2)大 豆

茎疫病の発生は**多**と予想される。発芽直後の過湿条件は発生を助長するので、排水対策を徹底する。

ネキリムシ類の発生は**やや多**と予想される。は種時の防除を徹底する。

(3)果 樹

カキ炭疽病の発生は**多**と予想される。感染しやすい徒長枝および不定芽を除去する。降雨前後の薬剤防除を徹底する。

ナシ黒斑病の発生は**やや多**と予想される。ポリオキシシンおよびジカルボキシイミド剤は耐性菌が県内に広く分布しているので、散布回数はそれぞれ年1回にとどめる。

リンゴ斑点落葉病の発生は**やや多**と予想される。耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

アブラムシ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

アザミウマ類および**ハマキムシ類**の発生は**やや多**と予想される。発生初期の防除を徹底する。

カメムシ類（おもに**クサギカメムシ**）の発生は**やや多**と予想される。発生を認めた場合は直ちに防除する。

シンクイムシ類の発生は**やや多**と予想される。発生初期の防除を徹底する。被害を受けた新梢は直ちに摘除し、土中に深く埋設する。

(4) 野菜

スイカ炭疽病の発生は**多**と予想される。トンネル除去時および発病初期の防除を徹底する。圃場排水に努める。

タマネギ、ネギべと病の発生は**多**と予想される。発病初期の防除を徹底する。

スイカつる枯病の発生は**やや多**と予想される。トンネル除去時および発病初期の防除を徹底する。圃場排水に努める。

スイカ褐斑細菌病の発生は**やや多**と予想される。大雨は本病の発生を助長するので、圃場排水に努める。発病初期の防除を徹底する。

ネギさび病の発生は**やや多**と予想される。被害枯死葉は、直ちに圃場外へ搬出する。圃場排水に努める。

アブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類および**ハモグリバエ類**の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ネキリムシ類の発生は**やや多**と予想される。は種時又は定植時の防除を徹底する。圃場および圃場周辺の除草をこまめに行う。

オオタバコガの発生は**やや多**と予想される。施設栽培では、開口部に寒冷紗等を設置して成虫の侵入を防止する。発生初期の防除を徹底する。

コナガの発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

※病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。